

『弱さの中の力』

せいばうろしゅうどうかい おおさかしゅうどういん あべまり
聖パウロ修道会 大阪修道院 阿部真理

『もし、誇る必要があるとすれば、私は自分の弱さからくことを誇ります』(Ⅱコリント 11・30)

このパウロの言葉は、今の私たちの世界において、本当に大切なメッセージです。そして、それは、教皇フランシスコの思いにも通じるものです。パウロは、この少し前の箇所で、『誰かが弱っているなら、私も弱らないでいられるでしょうか？誰かつまづかされようとしているなら、私も身を焼かれる思いをしないでいられるでしょうか』と熱い思いを書き述べます。

パウロは、決して、剛健な、たくましい方ではなかったようです。むしろ、体に弱点を持った人でした。そのパウロが、イエスと出会い、回心し、大きな恵みと力を得て、全世界への宣教者となったのです。

教皇フランシスコは、83歳という高齢でありながら全世界を旅し、特に、小さくされた貧しい人に対して、たくさんのメッセージを送っています。『無関心を遠ざけ、貧しい人や弱い人を支え、共に暮らす家である地球を大切にできるよう、私たちの役割を示してください』と祈っています。

聖パウロと教皇フランシスコ、彼らのこのエネルギーはどこから来るのでしょうか。

この二人に共通して言えることは、まず、他者の苦しみのすべてを自分のものとしていることです。苦しみ悩んでいる人たちを見て、自分の能力を超えて接していることです。その力の源は、神さまから受けた大きな恵みによるものであり、まぎれもなく神への信頼からくるものでしょう。

新型コロナウイルス感染症は、全世界を混乱に陥れました。たくさんの苦しみの中におられる方々がおられます。そして、その看護にあたる医療従事者が、日々、昼夜を問わず命をかけて働いておられます。教会においても、何か月もミサに与れず、秘跡から遠ざけられている方々がおられます。私たちは、常に、彼らの苦しみを、自分のものとして感じ、祈らなければなりません。

こんな時、私たちには何もできないと思うかもしれません。自分自身に病気を抱えている方や、自分の生活で精いっぱいな方もおられるでしょう。ただ、そんな時にこそ、神さまの恵みは豊かに注がれるのです。それも、自分では考えられないような思いがけない形で。自分の身の回りの小さな出会いから、教皇様のメッセージを実行してみましょう。たとえ小さなことからでも始めてみてください。神さまのみ旨にかなうならば、必ず神さまがたくさんの恵みを下さるでしょう。

最後に、最近であった小さなエピソードを一つ。私の友人が、どうしても越えられそうにない困難に出会い、お寺で一生懸命「御百度参り」をしていたそうです。周りでは何人かの人が同じように、必死に祈っていました。その時、どうしてもその人のことが気になり、気が付いたら、その人のために一生懸命祈っていたそうです。自分の祈りをさしておいて。そして同時に自分の祈りが聞き入れられたような不思議な気分になったそうです。

「自分のための祈りが、すべての人への祈りに変わる」。これこそ「本当の祈り」、「弱さの中の祈り」ではないかとおもいます。『私は弱い時にこそ強い』—聖パウロのことば—